

No.	対 談	論 文	その他
第一号	京都の美術文化を思う 梅原 猛 三浦景生	京都・美術の近代化 「浅井忠と京都」 上平 貢 竹内栖鳳の作風展開 原田平作 富本憲吉の近代 木下長広 深田康算の若き日 郡 定也	
第二号	華岳と波光 藤岡新三 秦 恒平	中井宗太郎先生 田中日佐夫	第一回京都美術文化賞
第三号	美工と絵専の思い出 上村松篁 梅原 猛	美工と絵専は京都に何を教えたか 美術工芸学校と京都画壇 廣田 孝 京都市立絵画専門学校と京都画壇 平野重光	京都市立美術工芸学校 京都市立絵画専門学校 略年表
第四号	当世京都画商気質 星野桂三 秦 恒平	華岳「日高河」雑感 加藤一雄 父、加藤一雄 加藤類子	第二回京都美術文化賞
第五号	新しい絵画世界を求めて 梅原 猛 加山又造	絵画のご一新 いわゆる「日本画」考 榊原吉郎 開化期京都洋画の思想 木下長宏	
第六号	京の、遊び心 徳力富吉郎 秦 恒平	小牧源太郎の芸術 中村義一	第三回京都美術文化賞
第七号	自然の心を描く 梅原 猛 下保 昭	維新前後の絵師たち 川口直宜	
第八号	美と美術館との出会い 秦 恒平 梶川芳友	京派への胎動期 榊原吉郎	第四回京都美術文化賞
第九号	心理空間を描く 梅原 猛 三尾公三	京の展覧会史 島田康寛	
第十号	気稟の清質最も尊ぶべし 中野皖司 秦 恒平	京の展覧会史 一日本画を中心に (二) 一 島田康寛	第五回京都美術文化賞
第十一号	夢を形に 梅原 猛 藤平 伸	円山・四条派における「写生画」の意味について 山川 武	
第十二号	京都感覚 小川後楽 秦 恒平	千家と職方 筒井紘一	第六回京都美術文化賞
第十三号	心の世界を描く 梅原 猛 中野弘彦	京の展覧会史 島田康寛	第七回京都美術文化賞
第十四号	京都の優雅文化 白井史朗 秦 恒平	祇園井特と京都画壇 田島達也	
第十五号	時代が芸術をつくる 作家と見る側との コミュニケーション 梅原 猛 山本容子	小野竹喬 小杉放菴 「奥の細道」に思うこと 草薙奈津子	第八回京都美術文化賞
第十六号	美術ジャーナリズムの機微 杉田博明 秦 恒平	美術記者神崎憲一のこと 加藤類子	
第十七号	絵を描く心 梅原 猛 麻田 浩	尊像はどのように造られるべきか —『日本靈異記』にみる造像譚— 岸 文和	第九回京都美術文化賞
第十八号	アートバイザーの前途 秦 恒平 村田博一	「通いの美学」ということ 井尻益郎	
第十九号	芸術を楽しむ 梅原 猛 木田安彦	現代陶芸の光と影 金子賢治	第十回京都美術文化賞
第二十号	平安京への視野 角田文衛 秦 恒平	甲斐庄楠音と土田麦僊 一二つの展覧会で考えたこと 木下長宏	
第二十一号	自由に自分の世界を追求する 梅原 猛 西野陽一	京都における建築論 中村貴志	第十一回京都美術文化賞
第二十二号	嵯峨の風光 藤原敏行 秦 恒平	逝った画家たちへの恋文抄 塩川京子	
第二十三号	様々な世界をとおして 梅原 猛 樂吉左衛門	一村上華岳の旅— 至高からの眺望 梶川芳友	第十二回京都美術文化賞
第二十四号	技と精神の伝承 江里康慧 江里佐代子 秦 恒平	『京の近代建築』撮影余話 石場昭雄	

第二十五号	伝統から新しい創造へ 梅原 猛 八木 明	粉本私論 榊原吉郎	第十三回京都美術文化賞
第二十六号	匠の美味一仕出しと京都— 川村岩松 秦 恒平	岡本神草「拳の舞妓」をめぐって 星野桂三	
第二十七号	清水家の伝統はものづくりの 自由さ 梅原 猛 八代目清水六兵衛	一九三五年（昭和十年）の京都画壇 平野重光	第十四回京都美術文化賞
第二十八号	日本画の問題と展望 榊原吉郎 大須賀潔 秦 恒平	日本画近代化理念の再検討 —西と東の動向をめぐって— 大須賀潔	
第二十九号	布を染める人生 玉村 咏 秦 恒平	美術工芸専門教育の高等学校 —近代史に先駆けた一実例— 江口 滉	第十五回京都美術文化賞
第三十号	画題との出会い 梅原 猛 川村悦子	お静かに 日本人の美意識 秦 恒平	
第三十一号	路傍の京都を撮る 甲斐扶佐義 秦 恒平	表具・落款・箱書・印章について（上） 今井 淳	第十六回京都美術文化賞
第三十二号	美術と仏教 梅原 猛 齋藤眞成	表具・落款・箱書・印章について（下） 今井 淳	
第三十三号	京の町家の瓦鐘馗 服部正実 秦 恒平	京暦美学事始（上） 神林恒道	第十七回京都美術文化賞
第三十四号	仏師の家系に導かれて 梅原 猛 野崎一良	京暦美学事始（下） 神林恒道	第十七回京都美術文化賞 受賞記念展
第三十五号	京薩摩はどうなる 奥谷智彦 秦 恒平	伝統の地政学 —世紀転換期における京都性の構築 佐藤守弘	第十八回京都美術文化賞
第三十六号	「新手」という創造性を求めて 梅原 猛 吉原英雄	日本画の表現 —描かれなかった主題— 大須賀潔	第十八回京都美術文化賞 受賞記念展
第三十七号	遊びの美と美術 三好閏三 秦 恒平	「古糊」について —材料科学から見た日本画修復— 早川典子	第十九回京都美術文化賞
第三十八号	〈土〉とは何であるか 梅原 猛 秋山 陽	中近世絵画史における扇絵 —扇にあらわれた美意識— 並木誠士	第十九回京都美術文化賞 受賞記念展
第三十九号	美術品目録とは何か 田中周二 秦 恒平	京都「画壇」の登場 吉中充代	第二十回京都美術文化賞
第四十号	思い出に残る作家たち 梅原 猛 内山武夫	試論 竹内栖鳳と一九世紀英国絵画 廣田 孝	第二十一回京都美術文化賞
第四十一号	特別対談 描くよるこび 梅原 猛 石本 正	近代日本画関連資料紹介 都路華香「子孫に遺す巻物」をめぐって 今井 淳	第二十二回京都美術文化賞
第四十二号	受け継がれる美意識 —細見美術館と京都— 細見良行 榊原吉郎	神坂雪佳と図案集 比嘉明子	第二十三回京都美術文化賞
第四十三号	写真芸術の新しい可能性 梅原 猛 井上隆雄	「平安画家評判記」について 田島達也	第二十四回京都美術文化賞
第四十四号	京表具の伝統と未来 榊原吉郎 村山秀紀	世界に発信する京の染め 福本繁樹	第二十五回京都美術文化賞
第四十五号	風の芸術家 梅原 猛 新宮 晋	「高台寺蒔絵」とは 田川真千子	第二十六回京都美術文化賞
第四十六号	これからの琳派 榊原吉郎 河野元昭	画家、豊嶋停雲について 松尾敦子	第二十七回京都美術文化賞
第四十七号	能—受け継がれる心 梅原 猛 梅若玄祥	堂本印象における絵画と工芸の関連性 山田由希代	第二十八回京都美術文化賞
第四十八号	京都 伝統工芸のこれから 榊原吉郎 若林卯兵衛	土佐家の蔵島図 松尾芳樹	第二十九回京都美術文化賞
第四十九号	京都の芸術文化とともに歩む 「中信美術奨励基金」 梅原 猛 村井康彦	市井の人・入江波光 —親交を示す資料を中心に— 大西基子	第三十回京都美術文化賞